

問1 16世紀半ば、フランシスコ・ザビエルらイエズス会の宣教師が日本を含むアジアなど世界各地へ布教に赴いた歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。（2017年 京都公立入試 類似）

1. ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため
2. マルコ・ポーロが『世界の記述（東方見聞録）』で日本を黄金の国と紹介したため
3. 十字軍の遠征が失敗し、キリスト教徒が住む場所をアジアに求めたため
4. 産業革命によって生産された工業製品を販売する市場を求めていたため

問2 大友宗麟をはじめとする有力な戦国大名が、キリスト教を保護し、自らも入信した背景として、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2025年 京都公立入試 類似）

1. 南蛮貿易による利益を得るとともに、軍事的に有利な鉄砲や火薬などの輸入を円滑に進めるため
2. キリスト教の教えを広めることで、反抗的な一向一揆などの仏教勢力を抑え込むため
3. 室町幕府の將軍から、キリスト教を保護することを条件に領地の支配権を認められたため
4. ヨーロッパ諸国の軍隊を日本に呼び寄せ、国内の戦乱を武力で平定させるため

問3 戦国時代、石見銀山などの鉱山開発が各地で盛んに行われた背景として、戦国大名が銀を求めた主な目的について説明したもののとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 岐阜公立入試 類似）

1. 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため
2. キリスト教の布教活動を支えるための寄付金として活用するため
3. 農村での貨幣経済を禁止し、年貢をすべて銀で納めさせるため
4. 朝廷から高い官位を得るための献上物として独占するため

問4 1543年、九州南方の種子島に漂着した船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2014年 沖縄公立入試 類似）

1. ポルトガル人
2. スペイン人
3. オランダ人
4. イギリス人

問5 戦国時代の越前国（現在の福井県）を支配した戦国大名の朝倉氏は、一乗谷を拠点として領国支配を行いました。このように、戦国大名が領国内を独自に統治するために制定した法を何といいますか。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 御成敗式目
4. 建武式目

問6 1549年に現在の鹿児島県にあたる地域へ来航し、日本に初めてキリスト教を伝えた宣教師の名前と、彼が所属していたカトリック教会の組織の組み合わせとして正しいものはどれか。（2020年 沖縄公立入試 類似）

1. フランシスコ・ザビエル（イエズス会）
2. マルコ・ポーロ（東インド会社）
3. ベリー（アメリカ海軍）
4. 鑑真（唐招提寺）

問7 室町幕府が最終的に滅亡を迎えた過程について、1573年に行われた出来事として正しい説明はどれですか。（2018年 静岡公立入試 類似）

1. 織田信長が、対立を深めていた15代將軍の足利義昭を京都から追放した
2. 織田信長が、鉄砲を組織的に用いて長篠の戦いで武田勝頼の軍勢を破った
3. 織田信長が、布教活動を行っていたフランシスコ・ザビエルにキリスト教の保護を約束した
4. 織田信長が、比叡山延暦寺を焼き討ちして宗教勢力の軍事を排除した

問8 戦国時代の社会的な特徴の一つである「下剋上」という現象について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること
2. 天皇を中心とした政治体制を復活させるために、幕府を倒そうとすること
3. 農民や地侍が団結して、領主に対して年貢の減免などを要求すること
4. 武士が自分の土地を直接支配するために、公家に土地を返還させること

問9 室町時代後半に見られた、実力で上の身分の者を圧倒する社会的な風潮の中で、それまでの守護に代わって台頭した勢力があります。自らの力で領地を拡大し、独自の法律である「分国法」などを定めて領国を支配したこれらの勢力を何と呼びますか。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 守護大名
2. 戦国大名
3. 地頭
4. 御家人

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため	ルターやカルバンによる宗教改革によって、ヨーロッパ内でのカトリック教会の権威が揺らぎました。これに対抗するため、カトリック側は自己改革を行うとともに、イエズス会などの組織を通じて世界各地にキリスト教を広め、教勢を回復しようとする「対抗宗教改革」の動きを強めました。ザビエルの来日もこの一環として位置づけられます。
問2	答え 1 南蛮貿易による利益を得るとともに、軍事的に有利な鉄砲や火薬などの輸入を円滑に進めるため	当時のキリスト教の布教は南蛮貿易と一体となって行われていました。戦国大名たちは、海外の進んだ技術や富、特に戦術を大きく変えた鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を優先的に確保するために、布教を許可して宣教師を優遇しました。
問3	答え 1 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため	戦国大名は、自国の軍事力を強化するために多額の資金を必要としていました。特に種子島に伝来した鉄砲やその弾薬となる鉛、火薬の原料となる硝石を海外から購入するための支払い手段として、また功績のあった家臣への報酬として、銀は極めて重要な価値を持っていました。
問4	答え 1 ポルトガル人	16世紀半ばの1543年、種子島に漂着した船に乗っていたポルトガル人によって鉄砲（火縄銃）がもたらされました。この出来事は、その後の日本の戦術や城郭の構造、さらには社会構造そのものを大きく変える契機となりました。当時の日本は戦国時代であり、新しい武器としての鉄砲は各地の戦国大名の間で急速に普及していきました。
問5	答え 1 分国法	戦国大名は、室町幕府の力が衰える中で、自らの領国を独自に統治する必要に迫られました。そのため、家臣同士の争いの禁止や領民の管理、軍役の規定などを定めた「分国法（領国法）」を制定しました。朝倉氏のほか、今川氏の今川俊元目録や武田氏の甲州法度之次第などが有名です。
問6	答え 1 フランシスコ・ザビエル（イエズス会）	16世紀、宗教改革に対抗してカトリック教会の立て直しを目指したイエズス会は、海外への布教活動を積極的に行いました。その創設メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルは、インドのゴアを経て鹿児島に上陸し、日本での布教を開始しました。これが日本におけるキリスト教伝来の始まりです。
問7	答え 1 織田信長が、対立を深めていた15代将軍の足利義昭を京都から追放した	織田信長は当初、足利義昭を擁立して京都に上洛しましたが、後に自らの政策を制限しようとする義昭と激しく対立しました。1573年、信長は義昭を京都から追放し、これにより200年以上続いた室町幕府は実質的に滅亡しました。鉄砲の伝来やキリスト教の布教開始はそれ以前の出来事であり、幕府滅亡の直接的な政治的要因は信長と将軍の対立にあります。
問8	答え 1 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること	下剋上は、中世から近世へと社会が激変する過程で現れた「実力主義」を象徴する動きです。それまでの家柄や伝統的な上下関係よりも、軍事力や経済力、政治的な手腕が重視されました。これによって、出自が低くても能力があれば一国の主（戦国大名）になれる道が開かれ、織田信長や豊臣秀吉のように、古い権威に縛られない新しい統治を行う勢力が登場する土壌となりました。
問9	答え 2 戦国大名	下剋上の風潮によって、幕府から任命された守護の地位を奪ったり、地域の有力な武士が実力をつけたりすることで新しい支配者が現れました。彼らは自らの力で領国内の家臣や農民を統制し、他の地域と争いながら勢力を広めました。